

a 学校教育目標	夢を持ち果敢に挑戦し社会に貢献する生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 知・徳・体のバランスのとれた力を身に付け、郷土から愛される生徒の通う学校
----------	------------------------	----------------------	--

評価計画				自己評価						改善策	学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	月		i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善策	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	自ら学び仲間と協働して学習できる生徒の育成	○個に応じた指導と学習習慣の定着 ○基礎学力の定着と深い学びの充実	○家庭での学習習慣の定着	○課題の提出 ○標準学力調査の全国平均以上	100% 全国平均以上	93% 標準学力調査は1月実施	92% 8/15	53%	C	・「標準学力調査」5教科×3学年の15教科中8教科で、全国平均を上回った。また、学年別の正答率は、1学年64.4%(全国57.4%)、2学年56.7%(全国57.7%)、3学年62.6%(全国63.4%)であった。教科別にみると全国を下回ったのは、2学年で社会、数学、理科と英語、3学年で国語、数学と理科である。その内特についでなかったのは、2学年数学と3学年理科の「知識・理解」である。	・各学年の平均点は1学年は全教科で全国平均を上回ったが、2・3学年ではわずかながらも下回った教科が多かった。朝ドリル学習や各教科でのドリル学習、提出物100%の取組は一定の成果を上げている。各教科の課題を明確にし、授業の工夫改善や個別指導、ドリル学習の徹底など、引き続き丁寧な指導を継続していく。 ・提出物が100%に近づくように、今後も教科担当と担任との連携を密にし、放課後等でもやりきらせる取組を引き続き行い、基礎学力の向上を図っていく。提出物については、家庭との連携も図る。 ・年間計画に沿って、研究授業を行い、授業改善を図る。	○	○	・各学年での評価にバラつきはあるが、現在の取組に一定の成果を上げている。 ・自分の思いを、相手にわかりやすく適切に表現できる力を身につけてほしい。 ・引き続き、丁寧な指導をすすめて、基礎学力の向上に力を入れていただきたい。
			○わかる・できる授業の創造に向けた授業改善	○生徒の授業満足度	90%以上	88% 1回以上	87% 19人	97% 100%	B A	・アンケートの結果(9月→1月)は、「授業はわかりやすい」(88%→87%)、「授業規律を守っている」(93%→95%)、「提出物を確実に出す」(87%→92%)で中間評価よりも若干下がったものもあるが「授業に関するアンケート調査結果は高い肯定的評価を維持している」。 ・研究授業は計画通りに進め、2月17日までに全員が実施した。				
			○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究の推進	○研究授業を1人年1回以上	1回以上	5人	19人	100%	A	・生活4訓のうち、挨拶に関して76%と課題。学年が下がるほど数値が下がっている。 ・いじめ発覚後の対応(情報共有や指導の統一等)を迅速に行う。 ・いじめは5件。暴力行為は0件である。 ・昨年度から改善されている生徒も数名いるが、今年度新たな不登校が6名である。				
豊かな心・健やかな体	郷土に愛される生徒の育成	○積極的生徒指導の推進 ○道徳教育の充実 ○異学年の協働活動の推進	○生活四訓の徹底とディリーの取組やいじめアンケートの実施	○生活四訓を守る ○「いじめ」「暴力行為」の件数 ○不登校の人数	100% 0件 15人以下	89% 2件 14人	89% 5件 18人	89% 0% 77%	B D C	・全校朝会等、全体での指導や各部活動での指導等、挨拶の意識を持たせる取組を行う。 ・今年度は教科化初年度として、評価の在り方等についての研修に重点を置いた。また、協働的な学び合いの場を仕組むための手法としてローテーション授業を取り入れたが、生徒の思考を深める発問の工夫や授業力向上等、議論する道徳に向けての本質的な研修が必要である。 ・生徒会を中心とした各委員会の活動を引き続き継続していく。 ・各部活動での指導を積極的にを行い、生徒の満足度を上げていく。	○	○	・部活動での挨拶の意識を高めることが、日常での挨拶につながる。 ・不登校生徒へのかかり方を工夫してほしい。「ハートルーム」から教室に戻れる生徒もいると聞いた。地道な取組をお願いしたい。 ・生徒が道徳の時間の必要性を肯定的にとらえていることが、具体的な将来の夢や目標、自己肯定感にもつながっている。	
			○協働的な学び合いの場を仕組み議論する道徳授業の推進	○道徳の授業満足度	80%以上	82% 15人以上	85.0% 18人	100%	A					・ローテーション授業等、組織的な取組を通して、「道徳の時間の勉強は好きです」と感じている生徒は85.4%に増加した。また、「道徳の時間の勉強はためになると感じます」という項目においては91.0%と、年間を通して90%以上の生徒が道徳の時間の学びに必要性を感じ、肯定的に捉えている。
			○生徒会活動や部活動の活性化	○生徒会活動等の自己有用感 ○部活動満足度	80%以上 90%以上	90% 90%	94% 89%	100% 89%	A A					・94%の生徒が「委員会、係活動などに責任をもって取り組み、学級や学校の役に立っている」と感じている。 ・89%の生徒が部活動に積極的に参加し、楽しく活動できていると感じている。
信頼される学校	郷土に貢献できる生徒の育成	○防災教育の推進 ○ボランティア活動の推進 ○業務改善の推進	○地域と連携した防災学習の推進	○自己有用感	80%以上	76% 80%以上	80% 92%	100% 100%	A A	・引き続き、アンケートや掲示等で、多くの生徒にボランティアに参加するように呼び掛ける。 ・教職員として生徒の成長のために尽力する意識を大切にしながら、効率的に職務を遂行できるよう工夫を重ねる。次年度に向けて、業務内容の精選に努め、業務が一部の教員に集中することのないよう、分掌の役割分担を考える。	○	○	・防災キャンプ以外の地域との連携をさらに進めてほしい。 ・教職員の業務改善に対する意識は高くなっている。退校時間も、中間評価の時よりも早くなっている。	
			○地域行事やボランティア活動への参加	○ボランティア活動参加満足度	80%以上	80%以上	91% 80%以上	92% 100%	100% A					・総合的な学習の時間での防災学習や防災キャンプを通して、自己有用感の向上を図った。 ・アンケートや掲示等で呼びかけで、多くの生徒がボランティアに参加した。
			○月に2日の定時退校日の設定 ○1人1業務改善の取組	○超過勤務月60時間以内 ○業務改善の意識調査	80%以上 80%以上	49% 60%	51% 86%	64% 100%	C A					・超過勤務月60時間以内の割合は、中間より増えており、時間外の在時間数は減っている。ただ、全体的には時間外の在時間割合は多い。また、業務が集中する時期がある。 ・業務改善に対する意識は高くなっている。

【j:自己評価 評価】

A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】

イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でないハ:分からない。